

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』

開催日時・会場

- ✚ 平成24年6月6日（水）17時30分～19時45分
- ✚ 松本市あがたの森文化会館

参加者

- ✚ 意見交換参加者 65名  
 公募の県民：52名  
 県関係者：13名  
 （阿部知事、進行役職員12名）
- ✚ 傍聴者 約15名



会場の様子など

ワールド・カフェという意見交換の過程（プロセス）そのものを大切にすする手法によって開催しました。会場として利用させていただいた松本市あがたの森文化会館は、重要文化財に指定されている大正時代の木造洋風建築です。

冒頭、阿部知事が「20年後なんて言われても分からないという意見もありますけれども、こういう社会にしたいなという強い思いがあって、そして県民の皆さんと力を合わせてその実現に向けて進もうということになれば、必ず私はそういう社会になるだろうと思っています。逆に、なんとなくその日暮らしのような形で考えていると、どれだけ毎年努力しても決して望ましい社会、望ましい長野県にはならないだろうと思います。そういう観点で20年後の長野県を皆さんと一緒に考えて、そこに向けてどういう一歩を踏み出すべきか一緒に語り合いたいと思っています。」などとあいさつをした後、大正ロマンの情緒あふれる会場で、テーブルごとに和やかに活発な意見交換をしていただきました。

最後に、テーブルごとの意見交換を振り返って「振り返りシート」に長野県が20年後にあるべき姿に近づくためのアイデア等を記入していただき、全体発表を経て閉会しました。

参加者の主なご意見

参加者の皆さんに記入していただきました「振り返りシート」のご意見・ご提言は、新たな総合5か年計画づくりに活用させていただきます。

振り返りシートでは、以下の3つの項目に記入していただきました。

1 キーワード＝20年後の長野県のあるべき姿

20年後の長野県のあるべき姿を、今日の意見交換でもっとも心に残ったキーワードを用いて短く簡潔に表してみてください。

## 2 あるべき姿に近づくアイデア

長野県を20年後のあるべき姿に近づけていくために、これはよいと思う工夫やアイデアがありましたか？

## 3 解決すべき問題と障害

工夫やアイデアを実現するために障害となることや、今後解決しなければならない問題は、何でしょうか？

以下には、意見交換の概要をお伝えする目的で、参加者のご意見・ご提言をサブ・テーマごとに整理し、簡潔に取りまとめて掲載します。（全ての意見を紹介するものではありません。）

### グループ1（サブ・テーマ：長野県の誇る健康・長寿について）

#### 1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✚ お互いさまという言葉と言える長野県
- ✚ みんなが寄り添えるコミュニティのある長野県
- ✚ 高齢者・障害者が快適に過ごせる長野県
- ✚ 中山間地でも安心して暮らせる長野県
- ✚ 育てる力のある長野県
- ✚ 充実した食のある長野県



#### 2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✚ お互いの顔が見える地域のあり方の構築
- ✚ 地域の人たちが出会い、意見が言い合えるサロンのものをつくる。
- ✚ 夜間だけ共同して暮らせる施設をつくる。
- ✚ 小さい地域、隣組単位で気楽に立ち寄れる居場所をつくり、困ったことを自治体まで行かなくても解決できる場所をつくる。
- ✚ 空家、空店舗、使っていない公務員宿舎を安く利用すること。
- ✚ ハンディキャップのある方々や慢性疾患のある方々への社会福祉を公平にする必要がある。
- ✚ 優しいまちづくり（高齢者や障害者を中心としたまちづくりはできないものか。）
- ✚ 地域ごとに熟議を行い、新しい共通ルールをつくる必要がある。これが個人の隔たりをなくすのではないか。
- ✚ 誰もが安心して結婚・子育てができる支援
- ✚ バランスの良い年齢構成、産み、育て、楽しめるコミュニティを目指す。
- ✚ 信州のありのままの生活の中にあるすごい価値を見いだして語り継ぎたい。
- ✚ 価値観の転換（経済競争→心、生活、農業、林業）
- ✚ どこから食物が成り立って口に運んでいるのか子どもの頃から知ること。
- ✚ 死を迎えることを理解し学んでいくこと。

#### 3 解決すべき問題と障害

- ✚ 組織の長や役員のみならず手がいないこと。
- ✚ 本当に高齢者や障害者が生まれた地域で生活できる受け皿が整備されているか。
- ✚ 家族間、近隣の人たちとのコミュニケーション不足

- ✦ 口腔の健康を伝えていく仕組みや人が位置づけられていないこと。
- ✦ 医師会など業界団体の反応
- ✦ 社会が変わっていくことを示し、今健康な人たちを教育する人がいないし仕組みもないこと。
- ✦ 地域と行政が両輪となって食の大切さを県民に伝えるには財源や人材が必要
- ✦ 県は強いリーダーシップを発揮して未来像を示すべきである。
- ✦ 有効かつ適正な予算配分、財源問題

## グループ2 (サブ・テーマ: **長野県を支える産業について**)

### 1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ 今あるものを大切に、負債を資産に変える長野県
- ✦ 20年後も信濃の国を皆が歌える長野県
- ✦ 生涯現役、常に改善向上の長野県
- ✦ 住んでいる人たちが楽しく幸せな長野県

### 2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✦ もっと、長野県民はふるさと信州について理解すべきである。
- ✦ 外に出ると自分のところの良さが分かるから、留学制度もいいと思う。
- ✦ 県の魅力を教育に盛り込む。
- ✦ 中高生の県外留学制度
- ✦ まず農業でしょう。まだまだ可能性はいっぱいある。
- ✦ 農林業の宿泊体験の場をつくる。
- ✦ 観光は全ての産業につながる。
- ✦ 自然エネルギーを売り物にする。
- ✦ 空き屋、農地の取引促進のためのあっせんシステム
- ✦ 空家を県が整備して都会の子どもたちを住まわす。信州を都会人の第2のふるさとにする。
- ✦ 平成の土農工商作戦（木材、農業等の一時産業→製造、販売、サービス、観光で連携）



### 3 解決すべき問題と障害

- ✦ 空き屋、農地の所有者の意識
- ✦ 農地法等の制約
- ✦ 良さに気づかない信州人
- ✦ 就業先の確保
- ✦ 後継者がいないこと。
- ✦ 情報発信が不足
- ✦ 村の中に他人が入ってくるのを良しとしないこと。
- ✦ 自分の家の山や田や土地をいじられるのが嫌がること。
- ✦ 横のつながり不足

## グループ3 (サブ・テーマ: **みんながあこがれる長野県での暮らしについて**)

### 1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ 将来を担う子どもたちのために、どこよりも大切に守りたい自然環境

- ✚ 長野ならではのエコな生活
- ✚ 安心を産む人のつながり
- ✚ 身の丈に合った自給自足
- ✚ 愉快的な仲間の長野県
- ✚ 子どもが20年後にこの場所で生きていきたい魅力あふれる長野県

## 2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✚ 自然を活かしたイベント。例えば、当たり前前の景色となっている北アルプスの美しさ、富士山に見えるポイント、ハヶ岳に見えるポイントを活かしたイベント。探鳥会、山芋・キノコの案内と解説等がある。
- ✚ 上高地、安曇野一帯の世界遺産登録を目指す。これによって、観光産業、長野県が活性化し、松本空港からのアクセスインフラの整備が進む。自然保護への意識も高まる。
- ✚ 今回のようなタウンミーティングといった県民のやる気を起こすような事業にも力を注ぐべきである。
- ✚ ミスマッチの解消（土地持ち非農家と農業の担い手、手入れのできない森林の所有者と手入れをしたい森林を持たない者）
- ✚ エネルギーをあまり使わずに暮らすことのできる家を増やす。
- ✚ 行政任せにしないで、自ら行動する。

## 3 解決すべき問題と障害

- ✚ 道路が悪い。
- ✚ 地元だけでは分からないような情報を県の方へ伝達する方法・組織をつくって欲しい。
- ✚ 行政も縦割り、民間も縦割り。
- ✚ 情報も自由に発信、交流できる場が欲しい。
- ✚ 地元で新鮮な空気が欲しい。とけ込めない人がいる。
- ✚ 若者の意見を聞かないこと。
- ✚ 昔ながらの組織を現状にマッチさせる。
- ✚ 教育者が自然体験をしたことがない。
- ✚ 子どもをどう教育すればよいか自身がない。親の再教育も必要。

